# 研究‧調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-169		20-319	慶應義塾大学 加藤眞三

## 題名 (原題/訳)

Differences in Sociodemographic and Alcohol-Related Clinical Characteristics Between Treatment Seekers and Nontreatment Seekers and Their Role in Predicting Outcomes in the COMBINE Study for Alcohol Use Disorder

アルコール使用障害に関する COMBINE 試験における治療希望者と非治療希望者の社会人口学的特性およびアルコール関連臨床特性の違いと転帰予測におけるその役割

### 執筆者

Carolina L Haass-Koffler, Daria Piacentino, Xiaobai Li, Victoria M Long , Mary R Lee 3, Robert M Swift, George A Kenna, Lorenzo Leggio

## 掲載誌

Alcohol Clin Exp Res. 2020 Oct;44(10):2097-2108. doi: 10.1111/acer.14428.

キーワード	PMID
アルコール依存症、アルコール使用障害、COMBINE、薬剤開発、非治療	32997422
希望者、無作為化比較試験、治療希望者	

#### 要旨

背景と目的:アルコール使用障害(AUD)の新規治療法の開発を目的とした初期段階の臨床研究における課題の一つは、登録された参加者が大酒飲みであるにもかかわらず、AUDの治療を求めていないことである。Brown 大学で実施された 4 つのヒトラボラトリー研究のアルコール依存症患者(N = 240、男性 65.4%)と多施設で実施された COMBINE 研究のアルコール依存症患者(N = 1,383、男性 69.1%)を社会人口統計学的変数とアルコール関連臨床変数で比較し、2 つのサンプルを有意に差別化する変数が COMBINE の 3 つの主要な臨床転帰(再発までの期間、禁酒日数(PDA)、良好な臨床転帰)を予測するかどうかを評価することを目的とする。

**方法**:サンプルの特性は、パラメトリックおよびノンパラメトリック検定により評価した。3 つの回帰モデルを用いて、異なる変数と COMBINE の 3 つの主要な臨床転帰との関連を測定した。

**結果**: 非治療者は治療者と比較して、民族的に多様で、教育水準が低く、独身で、パートタイムまたは無職であった(p's < 0.05); DSM-IV o AD 基準を満たす者が少なく、アルコール関連の尺度のスコアが有意に低かった(p's < 0. また、ベースライン前の 30 日間における総飲酒量、1 日あたりの飲酒量、多量飲酒日(HDD)、PDA の低下が有意に多かった(p<< 0.0001  $\sim < 0.05$ )。ベースラインの 30 日前に HDD が多いことは、3 つの COMBINE の臨床結果のすべてを予測した。また、教育水準、発症年齢、罹患期間を除き、2 群間で有意差のあったその他の特性は、COMBINE o3 つの臨床転帰のうち少なくとも10を予測した。

#### 結論

今回観察されたグループ間の違いは、AUD の新しい治療法を開発するための様々な段階での参加者募集において考慮されるべきである。